

日本精神分析協会

第42回 学術大会プログラム

会期:2024年6月8日(土)午後~6月9日(日)午後

会場:TKP 東京駅カンファレンスセンター(東京都中央区八重洲 1-8-16)

目次

目次	1
会長あいさつ	2
クリニカルグループ.....	3
講演と討論	4
訓練分析家企画パネル.....	5
候補生の会の企画	7
精神分析的療法家センターの企画.....	7
一般演題	8

会長あいさつ

日本精神分析協会学術大会の新しい門出に際し、ひとこと、会長としてご挨拶申し上げます。

いままで本協会は6月に東京で学術大会を、12月には東京と福岡で地方大会を開催してきました。会員と候補生、そして協会認定の精神療法家とその研修生だけが参加する小規模な会合でした。今年、私たちは大会を2日間に拡大し、本協会の関係者以外の臨床家の皆様にも聴衆としてご参加いただけるようにする改革に踏み切りました。協会外の方々には発表の権利を差し上げていないので、その分、参加費がお安くなっています。

私たちは日本で唯一のIPA加盟団体であり、常設のインスティテュート組織を持ち、訓練分析、スーパービジョン、セミナーを候補生に同時に集約的に供給して精神分析家を養成しています。またそのインスティテュートは精神分析的な精神療法家センターにおける精神療法家養成も担っています。いままで、本協会の会員、候補生、精神療法家センター会員は精神分析に関する多くの学術的成果を挙げてきました。しかし、その発表の場所としてはいままでの学術大会の規模は小さすぎ、その結果、他の学会で発表するしかないという状況が続いていました。その状況を見直し、協会関係者の学術的成果を発表する主要な場所としての学術大会の位置づけを確立する、ということが、今回の目的の最大のものです。

そして、そうした学術的成果に対してさまざまなご意見を頂ける機会とするために、協会外の皆様のご臨席をいただくことが私たちにとって大きな刺激にもなると考えております。活発なご討論をいただければ、きっと私たちは大きな恩恵をこうむることになるでしょうし、ご参加なさった協会外の皆様にも意味ある時間になりましょう。

2日間という短い時間ですが、100人ほどの協会関係者のかなりの部分が皆様の前でさまざまな発表をいたします。こうした発表をお聴きになった皆様が、本協会の活動へのご関心と理解を深めていただければ大変ありがたく存じます。皆様の語らいの機会として懇親会もご用意いたしました。

2日間、どうか存分にお楽しみください。

日本精神分析協会会長 藤山直樹

クリニカルグループ

2024年6月8日(土)

13:00~15:15

クリニカルグループ①

司会：加藤隆弘(会員) 事例提示：鈴木智美(会員) 討論：池田暁史(会員)

クリニカルグループ②

司会：岡村斉恵(候補生) 事例提示：妙木浩之(会員) 討論：西見奈子(会員)

クリニカルグループ③

司会：浅田 護(候補生) 事例提示：小波藏かおる(会員) 討論：奥寺 崇(会員)

クリニカルグループ④

司会：北村麻紀子(候補生) 事例提示：吉村 聡(会員) 討論：古賀靖彦(会員)

15:30~17:45

クリニカルグループ⑤

司会：岡田淳子(会員) 事例提示：衛藤暢明(候補生) 討論：藤山直樹(会員)

クリニカルグループ⑥

司会：渡部京太(候補生) 事例提示：玉田 幸(候補生) 討論：松木邦裕(会員)

クリニカルグループ⑦

司会：関真粧美(研修生) 事例提示：河野恵理(精神療法家) 討論：北山修(会員)

クリニカルグループ⑧

司会：高野晶(精神療法家) 事例提示：山口貴史(研修生) 討論：高橋靖恵(精神療法家)

講演と討論

2024年6月9日（日）

9:00-10:25

講演と討論①「鎖国と江戸的なもの」

16世紀から20世紀にかけて、西欧のコロニアリズムはアジアの諸国に多大なインパクトを与え、それぞれの地域文化はその衝撃によって変形された。日本も例外ではありえない。西欧的な一神教的世界観の侵入に対して日本がとった対処策が、200年以上の鎖国政策であった。それは、特殊な文化的性格を帯びた「江戸的なもの」を発展させた。開国によって、帝国主義的な疑似近代が日本に成立したが、「江戸的なもの」は日本人の生活文化のなかに生き続けた。そして戦後、それは別の形をとって具現することになる。

講演：藤山直樹（会員）

討論：北山 修（会員）

司会：相田信男（会員）

10:35-12:00

講演と討論②「後期ビオンの技法論」

後期ビオンの技法論は、1965年に英国協会での「記憶と欲望」の口演で明示された。それは「 $K \rightarrow 0$ 」から「 $0 \rightarrow K$ 」という認識論からの転換であり、演繹法的アプローチから帰納法的アプローチへの変換という、方法でのパラダイムシフトであった。その詳細を紹介する。

講演：松木邦裕（会員）

討論：福本 修（会員）

司会：古賀靖彦（会員）

訓練分析家企画パネル

2024年6月9日（日）

12:50-14:50

パネル①「日本人の罪意識をめぐって」

日本には「水に流す」や、払い、清め、禊ぎなど、独特の罪意識（穢れ）の処理方法がある。国際化の波にさらされ、歴史認識など不問に付すわけにはいかない事柄も多くなり、文化・社会と臨床をつなぐ企画としたい。

企画者 : 北山 修 (会員)

司会者 : 伊藤幸恵 (研修生)

パネリスト: 北山 修 (会員)、奥寺 崇 (会員)

討論者 : 加茂聡子 (会員)

パネル②「子宮と臍帯—包むものをつなぐもの」

子宮は、ばらばらに生じる心の要素を包むものとして機能する。一方、つなぐものすなわち臍帯は分析家（母体）と患者をつなぐもの、命綱として機能する。それらは、セッションの中でさまざまな形で現れ絡み合う。

企画者 : 小川豊昭 (会員)

司会者 : 岡田暁宜 (会員)

パネリスト: 福本 修 (会員)、田中克昌 (会員)、日下紀子 (研修生)

討論者 : 小川豊昭 (会員)

2024年6月9日（日）

15:00-17:00

パネル③「精神分析からみた児童精神医学臨床」

児童精神医学の現場には多くの悲惨な現実が存在しているように思える。そうした問題をもつ子どもたちとの臨床経験に関して、入院-外来治療、グループ療法をキーワードに、精神分析の観点から検討を試みる。

企画者 : 相田信男（会員）

司会者 : 相田信男（会員）

パネリスト: 渡部京太（候補生）、衛藤暢明（候補生）

討論者 : 加藤隆弘（会員）

パネル④「治療者はセッションの中でどのようにして 分析家になるのか」

治療者は、資格を取得することによって分析家になるのではなく、日夜患者との間で分析家になろうとして奮闘する。パネルでは三名のパネリストがこの難題への挑戦を提示する。数多くの参加と討論を期待したい。

企画者 : 古賀靖彦（会員）

司会者 : 清野百合（候補生）

パネリスト: 藤山直樹（会員）、吾妻壮（会員）、古賀靖彦（会員）

候補生の会の企画

2024年6月9日（日）

12:50-14:50

「精神分析家への訓練、そのリアル」

精神分析家への訓練は、訓練設定という外的リアルと変化していく心という内的リアル、その両輪で進んでいく。本企画は訓練についてパネリストの経験とともに考えていく。また長めのディスカッションの時間を用意し、フロアとも意見交流を活発に行いたい。

司会：岡村斉恵（候補生）、須藤将司（候補生）

説明（トレーニングについて）：岩永洋一（候補生）

パネリスト：衛藤暢明（候補生）、岡本亜美（候補生）、岡田淳子（会員）

精神分析的な精神療法家センターの企画

2024年6月9日（日）

15:00-17:00

「対面法を考える」

多くの精神分析的な精神療法は寝椅子の臨床を通して生まれた概念を用いながら対面法によって営まれている、という事実はどこまで直視されてきただろうか。我々はここにしかと両目を開くことにした。そこには独特な困難や開拓が、そして独自の発見があるに違いない。

司会：高野 晶（精神療法家）、飯島みどり（研修生）

発表：高橋靖恵（精神療法家）、日下紀子（研修生）、伊藤幸恵（研修生）

討論：妙木浩之（会員）、柴田俊祐（研修生）

一般演題

2024年6月9日(日)

12:50~13:25

演題1 「伝統的な日本人の心性とそれを再生産してきた社会構造の要素
—「甘え」理論、「見るなの禁止」論を発展させ、組み合わせ、臨床に応用する—」

司会：古賀靖彦(会員)

発表：宮田善文(会員)

13:25~14:00

演題2 「治療プロセスと転移の変遷について」

司会：吾妻 壮(会員)

発表：中村浩平(会員)

14:00~14:35

演題3 「つながりへの破壊に立ち向かうこと。こころの皮膚の脆さを扱うこと」

司会：藤山直樹(会員)

発表：原田康平(会員)

14:35~15:10

演題4 「精神分析的心理療法における治療構造の意義
—「在」と「不在」を繋ぐ治療者の役割—」

司会：村岡倫子(精神療法家)

発表：中村曜子(研修生)・岡野憲一郎(会員)

15:15~15:50

演題5 「心的空間の創造」

司会：鈴木智美(会員)

発表：岡本亜美(候補生)

15:50~16:25

演題6 「アイティンゴン・モデルにおける精神分析トレーニングとその論争のレビュー」

司会：岡野憲一郎(会員)

発表：岡村齊恵(候補生)

16:25~17:00

演題7 「中立性を巡る葛藤 — 理想化という逆転移のワーキングスルー —」

司会：岡田暁宜(会員)

発表：須藤将司(候補生)